

令和7年度 政策局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 政策局X方針について

(1)課題数 全12件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	1件	6件	5件
政策分野	DX推進	計画、国際、DX推進、 政策連携団体	計画、DX推進

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル……政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A AI・RPA・ローコードツール等による業務効率化の拡大(資料1のP3)

○持続可能で質の高い行政サービスの提供を目的として、職員の企画立案や問い合わせ対応など、幅広い業務の効率化を図る必要がある。

○そのため、R7年度は以下の取組等を行い、生み出された時間とマンパワーにより市民サービスの向上を目指す。

- ・生成 AI を中心とした AI の徹底活用
- ・kintone による全庁的な業務改善につながるシステムの拡大

・課題B 広域連携の推進(資料1の P4)

- スケールメリットや市民サービスの向上など、WIN-WIN の関係が築ける連携を進める必要があるが、連携に伴う相手方との合意形成等に課題があり、実効性のある新たな連携事業が進んでいない。
- そのため、R7 年度は以下の取組を行い、実効性のある連携事業の実施に繋げる。
 - ・北九州市役所内の連携事業実施の可能性の高い部門との意見交換
 - ・首長会談等を通じ、自治体間のコミュニケーションを積極的に図ることによる、連携推進に向けた関係構築

・課題 B 「デジタルで快適・便利な幸せなまち」の実現(資料1の P11~12)

- 今後ますます発展する IT 技術の進展に応じた行政サービスの向上や、DX・AI 推進の『選択と集中』が求められている。
- そのため、R7 年度は以下の取組等を行い、市民が24時間365日いつでも簡単、便利に公共サービスを利用できる市役所の実現を目指す。
 - ・「書かない」「待たない」「行かなくていい」スマラク区役所サービスプロジェクトの推進
 - ・DX の効果が最大となる業務フロー・環境を構築する業務改革の推進
 - ・DX が推進される風土・環境実現のための体系的な人材育成

・課題 C 世界をリードするサステナブルシティの実現(資料1の P14)

- 北九州市は、環境や人口減少・少子高齢化などの社会課題を解決し、「持続可能なまち(サステナブルシティ)」であり続けるための戦略的なアプローチが確立されていない。
- そのため、R7 年度は以下の取組を行い、国内外からの投資の喚起や、市民の「サステナブル」な意識・行動変容を促し、市民の幸福度を高めるとともに、世界をリードするサステナブルシティとして世界との繋がりを強化し、「まちの成長と市民の幸福の好循環」を目指す。
 - ・目指す都市像を実現するための戦略的アプローチの策定

・課題 C 女性のリアルな声に基づいたコンフォートなまちの実現(資料1の P15~16)

- 北九州市では、結婚、出産、就業などのライフイベントに際する、女性の自己決定権の尊重という視点が不足している傾向や、家庭や職場における男女平等達成感が、全国平均より低く、男女差も大きい現状がある。
- そのため、R7年度は以下の取組を行い、「市民との対話を通じた政策形成」に取り組むことで、女性の選択が尊重される社会、ひいてはすべての市民が互いに尊重し合うことができる持続可能な社会を目指す。
 - ・より多くの女性のリアルな声を聴くことを目的とした「Woman's リアル VOICE プロジェクト」の実施